

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05280	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	消化管の階層的粘膜支持関連システムによる粘膜防御機構の解明	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	清野 宏 (東京大学・医科学研究所・特任教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究では、粘膜外組織と粘膜組織とのクロストークという観点から、粘膜支持を担う粘膜「外」支持組織による粘膜「防御」機構という新規機能についての分子実体の理解を目指して、腸-膵連関、粘膜-間葉系連関、粘膜-筋連関の3つのプロジェクトが同時に進められている。

各プロジェクトはそれぞれ順調に成果を出しつつある。これまでに、膵腺房細胞の産生する糖タンパク GP2 の機能を明らかにし、GP2 欠損マウスを作製、個体レベルの機能解析を行っている。また、パネート細胞の部位特異的な機能が明らかになっており、平滑筋細胞による粘膜防御機構の研究も進めている。いずれも、新たなコンセプトにつながる研究成果であり、論文による成果の公表も積極的であり、国際的に卓越した研究成果として注目されることが期待できる。